

2025 年 11 月 14 日

三菱倉庫株式会社

2026 年 3 月期 中間期決算説明会 質疑応答

※ 本内容は書き起こしではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

【音声による質問】

Q 1 ①キャバリエ社の現在の取扱い数量の動向、立て直しに向けた取組みについて。

②キャバリエ社を買収した時と事業環境、前提条件が変わっていると推察される。

減損リスクはどう考えるか。

A 1 ①キャバリエ社が減収減益となった要因は、大きく以下の 2 つ。

・ ノースカロライナ州の新倉庫 (12,000 m²) の貨物取扱い開始が遅れていること

・ 米国通商政策の影響を大きく受けたこと

(予算削減で政府系貨物の取扱いが減少、薬価引下げ等により顧客の SCM が変化)

ノースカロライナ州の新倉庫は当初予定していた貨物に代わり、別の貨物の取扱いが決定している。取扱い開始は来期からとなるが、業績回復への寄与が見込まれる。

顧客の SCM 見直しによる取扱い減少に対しては、米国での営業体制強化により対応する。

②キャバリエ社は毎年度に減損テストを実施している。

減損については、今年度末に向けた論点となる。

Q 2 ①成長戦略実現に向けてコーポレート機能の強化で人件費が増加しているが、その他に不足している要素はあるか。追加コストは発生するか。

②M&A を除いた成長投資 (物流) の進捗はどのように評価しているか。

A 2 ①コーポレート機能の強化として、M&A に対応する人員の増強、リスクマネジメント部門の強化、資産活用戦略を検討する CRE 部の組成、等の体制強化はある程度の目途が立っている。

今後、これ以上大きなコスト増は無いと見込む。

②M&A を除いた成長投資は想定通り。下半期に新しい物流施設について発表できる予定。

Q 3 ①政策保有株式の売却目標はなぜ純資産比率 20% 未満なのか。

早期に全量売却すべきではないか。

②不動産の巨額の含み益を解消しない限り、抜本的な資本効率改善は実現できない。

全てオフバランス化等の対応は考えていないのか。

A 3 ①当社は長い歴史の中で多くの取引先と政策的に株式を保有する関係にあるため、売却には一定の準備期間を要する。2026 年 3 月時点で 20% 未満とする目標は、現時点で可能な限り縮減したうえでの水準と考えている。

②不動産ファンドの組成も含む資産回転型ビジネスにおいて、含み益を持つ不動産も有効に活用したビジネスを推進する。

Q 4 資産回転型ビジネスでは、現在保有する不動産のオフバランスも計画しているということか。

A 4 計画には含めている。

Q 5 ①中国子会社の業績回復見通し。

②物流事業の M&A の検討状況。

A 5 ①中国の景気減速による影響を受けて業績が悪化している。

本社並びに子会社の営業体制を強化している。

新規貨物の取扱い等の成果は来年度に出る見込みであり、今年度中の業績回復は厳しいが、来年度は回復する見通し。

②現時点で成約に至った案件は無いが、検討案件は複数ある。

M&A 部門の体制を強化しており、成約に向けて引続き取組みを進める。

【テキストによる質問】

Q 6 キャバリエ社の状況についてより詳しく状況を知りたい。

来期に予定している新規貨物は、今期の下振れ分を取戻せるボリュームか。

A 6 新規貨物の物量は、当初予定されていた貨物より大きい。

取扱い開始は来年度の下半期を予定しているため、この新規貨物だけでは当期の下振れ分を取り戻すことは難しい。新規貨物の入庫開始までの期間の集荷、国際輸送事業の営業強化が必要。

Q 7 2027年3月末の政策保有株式縮減目標、相手先との交渉状況と合わせて教えて欲しい。

A 7 2026年3月末に対純資産比率20%未満を達成した後も政策保有株式の縮減を進めるが、現時点で具体的な数値目標を設定することは難しい。

Q 8 下半期の利益率について教えて欲しい。

上半期と下半期の営業収益、事業利益の増減を比較すると、下半期の利益率は高くなると思われる。コスト削減等の施策があるのか。

A 8 下半期は新規案件が複数予定されており、それらを考慮した数字となっている。

大規模なコスト削減等は検討していない。

Q 9 キャバリエ社の新規貨物取扱いについて。

①当初予定していた貨物のように取扱いが中止される可能性はないのか。

②当初予定していた貨物と比較して採算性はどうか。

③見込んでいる取扱量を具体的な数字で教えて欲しい。

A 9 ①当初予定していた貨物は、顧客が欧州のメガファーマに買収されたために SCM が大きく変更となったことが要因であり、イレギュラーケースと考える。

今回の新規貨物は、決定事項である。

②採算性の比較はしていないが、取扱数量は大きくなる見込み。

③現時点では具体的な取扱量を示すことは難しい。

以 上